

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育目標とディプロマ・ポリシーに基づき現行カリキュラムの個々の開設科目の内容を具体的に精査する。	→「文学部教育目標」、「文学部ディプロマ・ポリシー」(6-1に基づく)	C
2. 専門科目と教養科目の関連性を再定義し、あわせて履修単位制限の厳格化を実施する。	→「新基本構想(教育)A-2」、「(教育)A-7」、「文学部開講科目一覧」、「文学部内規」	C
3. 学部の開講授業総数を見直し、増加が必要な科目に関しては可能な限り対応する。	→「文学部および他学部の開講授業総数の推移」、「文学部授業受講者数推移」	C
4. 学部における初年時教育内容の明確化と全学提供初年次教育との連携を検討するため委員会を設置し具体的検討を行う。	→「新基本構想(教育)A-2」、「人文演習開設数・受講者数」、「人文演習担当教員アンケート」	C
5. 『文学部履修心得』をより利用しやすい形へと改善する。	→「文学部履修心得」、「文学部GPA分布」、「GPAと就職の相関関係」	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

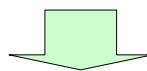
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 現在の文学部のカリキュラムは2003年度から実施されてきたものだが、すでに7年間が経過し、学内外の実情に合わない部分が出てきているため。また、新基本構想の制定により、その内容との整合性を図る必要も出てきている。そのため、6.1に挙げたディプロマ・ポリシーの明文化とも関連させながら、従来の開設科目の内容と配置の仕方を精査し、学部の抽象的な教育理念と具体的な授業編成・内容との連続性を確立する。 (現状説明) 必要な授業科目の体系的配置については、おおむね達成されている。専門教育と教養教育の位置づけに関しては、教養教育のあり方自体が、現在教養系科目検討委員会で検討されているので、そこでの議論の流れと連動しながら、文学部内でも検討を進めていく予定である。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 初年時教育に関しては、「人文演習」に関する担当者会を毎学期ごとに行い、問題の共有化と内容の充実につとめている。外国語科目に関しては、年度ごとに開講数の細かな調整を行い、適切な受講者数になるよう配慮している。高大連携に関しては、受講者実数が少ないため、現状に関して十分な把握は行われていない。
☆ その他	

◎**効果が上がっている事項**

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置
★小項目6.2.2	初年時教育、特に人文演習の提供
その他	



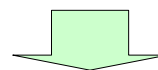
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	授業科目数に関しては、実情に合わせた増加を検討する必要がある。科目配置の順次性については、より細かなレベルでの検討と調節を進めていく。
★小項目6.2.2	文学部全体の初年時教育の方針と、個々の人文演習の授業内容との関連性の明確化
その他	

◎**改善すべき事項**

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	専門教育・教養教育の位置づけ
★小項目6.2.2	人文演習以外の初年時教育に関する諸問題の検討
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	全学の教養系科目専門部会で検討されているKG学士力に関する具体的内容をふまえながら、文学部としての教養教育のあり方と具体的授業内容、配置を検討していく。
★小項目6.2.2	特に外国語科目に関して諸問題を洗い出し、全学の外国語教育の動きを見ながら、提供形態、教育内容、受講者人数等の検討を行う。
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】	○「進捗評価」で「C」が多いのは残念ですが、問題点が具体的に意識されているので、今後の改善が期待されます。
【学内委員】	○上記取り組みは大変評価できます。 ○授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成するためには、2009年度に設定された目標の達成が不可避です。しかし、いずれの目標に関しても進捗度が低いようなので、今後の努力が期待されます。

Ⅳ. **学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述**

★なし	
-----	--

Ⅴ. **本項目の評価指標**

＜全学的な指標＞

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

＜個別的な指標＞
